

福田学園校友会 作業療法部会 × 大学院部会

# 脳卒中後の上肢麻痺に対するリハビリテーション ～根拠に基づく実践と脳画像を用いた予後予測～

2024年5月25日（土）

13：00～16：00（受付開始 12：30）

**会場** 大阪保健医療大学1号館 151/152教室 ※現地開催のみ

**講師** 大瀧 亮二 先生

- ・ 専門作業療法士（脳血管障害）
- ・ 医学博士（東北大学）
- ・ 山形済生病院 リハビリテーション部 主任
- ・ 東北大学大学院 医学系研究科 非常勤講師

**予定** 13:00～15:00 根拠に基づくリハビリテーションの実践  
15:15～16:15 脳画像を用いた予後予測

**対象者** ①福田学園校友会 正会員および準会員

②2022年度～2024年度に大阪保健医療大学、大阪リハビリテーション専門学校からの実習生を受け入れた施設のスタッフ

③2022年～2024年に大阪保健医療大学、大阪リハビリテーション専門学校から卒業した者\*が就職した施設のスタッフ

\*2024年4月時点で経験年数1～3年目の卒業生

**定員** 150名程度（先着順、状況に応じて変動する可能性あり）

**参加費** 福田学園校友会会員・準会員：無料 非会員：500円

**申込方法**

QRコードから福田学園校友会HPにアクセスしてください。



## 研修会の目的

ヒトは上肢を用いるために二足歩行を獲得したと言われています。それほどヒトの生活には上肢機能が必要不可欠となっていますが、元来上肢麻痺は改善が乏しいと言われてきました。しかし、近年では上肢麻痺に対する様々なリハビリテーションが開発されており、治療効果は大きく改善してきました。更には脳画像などの医学所見を応用することで適切な予後予測に基づいたリハビリテーションが展開できるようになりました。

本研修会では上肢麻痺のリハビリテーションに対する最新の知見を学ぶとともに、脳画像を用いた根拠に基づく予後予測について学んで頂き、日頃の臨床活動を見直すきっかけにして頂きたいと考えています。



### 大瀧 亮二 先生

- ・ 専門作業療法士（脳血管障害）
- ・ 医学博士（東北大学）
- ・ 山形済生病院 リハビリテーション部 主任
- ・ 東北大学大学院 医学系研究科 非常勤講師

#### 講演① 13:00～15:00

##### 根拠に基づくりハビリテーションの実践

脳卒中後の上肢麻痺に対するアプローチにおいて重要な「根拠に基づく実践（Evidence-based practise: EBP）」の概念や具体的な手続きについて、ご説明いたします。

また、日本だけでなく世界ではどのようなアプローチが推奨されているのか、国内外のガイドラインを踏まえてご紹介いたします。さらに、それらのアプローチを時期・重症度・痙縮などの病態に応じてどのように選択すれば良いのか、近年提案されているデシジョンツリーやハンドブックなどの意思決定の参考になるものもご紹介いたします。

加えて、当院での臨床において有用と感じる反復末梢神経磁気刺激や装具療法などの活用についても症例を通じてお伝えさせていただきます。

#### 講演② 15:15～16:15

##### 脳画像を用いた予後予測

根拠に基づく実践を行う際に、「予後予測」に関する知識や理解も重要です。臨床現場において「脳画像」は病態把握の一助として活用することが多いですが、予後予測に活用することも可能です。過去にはfMRIや拡散テンソル画像を用いた手法が提案されていましたが、一般的な臨床現場では撮像や解析が難しい現状にあります。そこで、臨床現場で撮像される「TI画像」を用いて、脳病変によって脳内のどのネットワークがどの程度損傷したのかを「評価」することが出来る最新の知見・ツールをご紹介します。これにより、運動機能だけでなく高次脳機能に関する機能的予後予測も可能となりますので、ぜひ臨床に役立てていただければと思っております。

ご不明な点がございましたら、以下の連絡先にご連絡ください。

① 福田学園校友会 事務局 正田 初摘（hazumi.shoda@ohsu.ac.jp）

② 福田学園校友会 大学院部会長 津村 宜秀（yoshihide.tsumura@ohsu.ac.jp）